

2011年8月3日(水)

学習効果の上がる「予習ノート」の作り方を考える
この予習の方法を身につければ成績は飛躍的に向上

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：先週の金曜日7月29日の「2011年夏塾長特別講義の第7回目」で、「予習はわからないところをはっきりさせてから授業に臨むためにするもの」というお話があり、最後に「来週は予習ノートの作り方」についてお話をするとおっしゃっておられました。「学習効果の上がる予習ノートの作り方」をお話して下さい。

A：(林明夫：以下省略)わかりました。学校でよい成績を取ることや受験に際して用いられる模擬試験で高い偏差値を取ることと、頭がよい、あまりよくないということは全く関係がありません。

私が9回にわたって説明したやり方で、学校や開倫塾の先生方の授業を真剣に聞き、時間をかけてコツコツと勉強した人は、学校の成績もよく、模擬試験の偏差値も高い。そう断言できます。

これに加えて、今からお話する方法で「予習ノート」を作成し、この「予習ノート」を活用すれば、現在どのような学校の成績・偏差値であろうと、短期間で学力は飛躍的に向上します。ただし、時間だけはかかります。誰の助けもいりません。自分一人でもできます。自己責任、自助努力でできます。

学力を一気に上げたい人はチャレンジして下さい。このやり方は、上級学校に進学した後も、短期大学や専門学校、大学、大学院に進学したときも役に立ちます。社会に出て、新しい勉強に取り組むときにも役に立ちます。一生役に立つ「予習ノート」の作り方を、今から「伝授」、お伝えします。

Q：早く教えて下さい。

A：(1)「予習」の意味をもう一度確認します。予習は何のためにするのか。「予習はわからないところをはっきりさせてから授業に臨むためにするもの」でしたね。「予習ノート」を作るときも、「わからないところをはっきりさせる」と「授業に臨む」、つまり、この「予習ノート」は授業で用いるということをいつも頭に置くようにお願いします。

(2)「わからないところをはっきりさせる」ために「予習」をする。その「結果」をノートに「メモ」、記録する。これが「予習ノート」です。

(3)ということは、自分の力で「わかる」、つまり「うんなるほど」と「理解」できるところまでは自分の力で「理解」してみることです。

(4)できれば、「予習ノート」はB版ではなくて、たっぷり書き込める「A版」を使うと極めて便利です。「ノートはA版」を用いる、これが私の考えです。「ノートの大きさ」までは誰も教えてくれませんが、私は「A版ノート」を皆様に強くお勧めします。

Q : 「ノートはA版」ですね。そこまではよくわかりました。そろそろ科目別に具体的にお話して下さい。

A : (1) はい、わかりました。英語からスタートします。

(2) 例えば、開倫塾の夏期講習や8月分授業のテキストの予習はどのように行ったらよいか。お盆特訓の予習はどのように行ったらよいか。その結果をどのように「予習ノート」に記録(メモ)したらよいか。その「予習ノート」を開倫塾の夏期講習会や8月分授業にどう生かしたらよいか。受験学年の皆様は授業にどう生かしたらよいか。今から考えましょう。

(3) 皆様にお聞きします。今日の英語の授業の予習はどのようにやっていますか。普通は次のような「流れ」で、英語の授業の予習をするのではないかと思います。

(4) その日の授業で勉強するページがテキストの20～24ページだとしたら、「予習」として、まずはテキストの1ページから19ページまでの本文と例文をすべて大きな声で「音読」すること。

もし、今日はテキストの50～54ページまで授業で勉強するとしたら、1ページから49ページまで大きな声で「音読」すること。

今日は150～154ページまで勉強するとしたら、1ページから149ページまで大きな声で「音読」すること。

そんなことはできっこないと思わないで、今までやったところまでひたすら「音読」することです。

私が高校生のときに見ていたNHK英会話中級という番組で講師をしていた同時通訳の第一人者、国弘正雄先生は、中学校の英語の教科書は授業で習って意味がよくわかったところまで500回から1000回ひたすら音読したそうです。

そして、「音読」が終わったら、「予習ノート」の「日付け」の後にテキスト～ページまで「音読」と必ず「記録」しておくこと。

Q : なぜ、新しいところに入る前に今までやったところまでを「音読」するのが「予習」に入るのですか。

A : (1) それは素晴らしい質問ですね。(It is a very good question!!)

(2) 新しいことを100%完全に理解するには、それまでに勉強してきたことを100%身につけることが大事だからです。今日、テキストの20～24ページという新しいところの100%理解を目指すのなら、今までに学んだ1～19ページまでの内容を「音読」により100%身につけておく必要があるからです。

(3) この考え方を「完全修得理論(Perfect Mastering Theory パーフェクト・マスタリング・セオリー)」と呼ぶことは、御紹介済みですね。

(4) 今までに学んだことをもう一回「音読」してから今日のところに入ることも、今日勉強することを「100%理解」するための大切な「予習」です。これが私の考えです。

(5) これをさらに進めると、一冊のテキストを短い時間のうちに「音読」できることになります。もっと言えば、一冊のテキストをスミからスミまで完全に覚えていることになります。

国弘正雄先生ではありませんが、ここまで「音読」した内容は一生忘れることはありません。これが「音読」の効果です。

Q：テキストの1ページから今までに勉強した範囲までの「音読」の次は、何をしたらよいのですか。

A：(1)例えば、今日授業で勉強するのは20～24ページまでの5ページだとしたら、20ページから24ページまでを1ページずつ、日本語の説明も含めてゆっくりと「音読」することをお勧めします。

(2)次に、ゆっくりと「音読」しながら、よく読めない・よく意味のわからない「ことば」や「語句」があったら、「テキスト」に「えんぴつ」で自分で決めた「印」をつけておくことをお勧めします。英語の単語や語句だけでなく、日本語にも印をつけましょう。

(3)第3に、もう一度20ページから「音読」しながら、よく読めない・よく意味のわからない「ことば」や「語句」が出てきたら、そのたびごとに「辞書」(英和辞典)を引いて、その「意味」や「読み方」を調べましょう。そして、意味や読み方がわかったら、そののちをもう一度「音読」してみましょう。

(4)「英語の予習ノート」に「ことば」つまり「英単語」や、「語句」つまり「英熟語」の意味や読み方を「記録」する、「メモ」するのはその後です。

(5)予習ノートの1ページのまん中に縦に線を引き、その左側にbookやpenなどの「英単語」、a lot of～やbe interested in～などの「英熟語」を書き写す。その右側に「本」や「ペン」、「たくさんの～」や「～に興味がある」などの「意味」を書き写すことをお勧めします。

(6)テキストのページではじめて調べた「単語」や「英熟語」の前に、「テキスト ページ」と「ページ」を「記録」しておくとも後で便利です。

(7)「英単語」の「読み方」がわからないものは、「カタカナ」ではなく、「発音記号」を必ず「記録」しておきましょうね。「カタカナ」をいくら覚えても、「英語として通じる」ことはまずありません。「発音記号」の読み方を一日も早く覚えて下さいね。「発音記号」通りにないに発音すれば、皆様の英語は世界中の人々に通じます。「カタカナ」は日本語ですから、「カタカナ」通りの発音をしても通じません。

(8)「英単語」と「英熟語」を1つ調べたら、その都度その場で何回も発音して、発音の仕方を覚えてみましょう。発音できるようになったら、ボソボソ発音しながら、書けるようになるまで、不要な紙を用いて何回も何十回でもその場で書き取り練習をしてみましょう。

Q：エー、辞書で調べたら、「ノート」にメモしたら、その場で「音読練習」と「書き取り練習」をするのですか。

A：(1)その通りです。よく読め、よく書けるようになったら、その「英単語」や「英熟語」が含まれているテキストの「文章」をスラスラ読めるようになるまで何回も何十回も「音読」してみてください。

(2)「音読練習」をしていて、その文章全体の意味がよくわかる、「理解」できたらどうするか。「英語の予習ノート」の右ページのまん中に縦に一本線を引き、その左側に教科書(テキスト)の英文を写し、右側にその日本語の訳、意味を書いておきましょう。

(3)このようにして、ノートの左ページにテキスト 1 ページ分の「英単語」と「英熟語」の「発音」や「意味」のよくわからないものを「辞書」つまり「英和辞典」を用いて調べ、右ページに英文とその日本語訳を書きます。そして、ノートの左ページも右ページも「音読練習」と「書き取り練習」を繰り返してよくわかった、つまり「理解」した内容についてはスミからスミまで予習のときに覚えてしまう、身につけてしまうことが、私の勧める学力を飛躍的に向上させる「予習ノート」の使い方です。

(4)このような順序・手順で「予習」、つまり「予習ノート」を用いて勉強していてもよくわからないことがあったら、自分なりの「よくわからないマーク」をできればカラーを用いて「予習ノート」につけておくことをお勧めします。

(5) 多くの場合、新しく学ぶ構文や文法事項は辞書で調べただけではよくわからないと思われる。

そんなときに大活躍するのが、中学生の場合は少し厚めの「英語の学年別参考書」です。高校生の場合は少し厚めの「英文法」や「英作文」、「英文解釈」の「参考書」です。

これらの少し厚めの英語の「参考書」を「辞書代わり」に毎日の予習のときにどんどん活用し、辞書と同じようにボロボロになるまで引いて、引いて、引きまくる人で、英語の成績がよくない人はいません。少し厚めの「英語の参考書」を徹底的に活用して下さいね。

薄い参考書は要点・ポイントをまとめたものが多いため、一度よく「理解」したことや「定着」したことをもう一度整理したり、復習したりするときには役に立ちますが、これは一体どういうことかとものごとの本質をじっくり「理解」する「予習」のためにはあまり適切とは言えないと私は考えます。

参考書で調べ、「そうか、これはこうなるのか」とよく「理解」した内容も、手短かにまとめて「予習ノート」に「記録」し、繰り返し「音読」、「書き取り」をして、予習をしている中でバッチリと「定着」、身につけてしまいましょう。

Q：テキストにある「パターン練習」や「問題練習」はどのように「予習」するのですか。

A：(1)まずは、「パターン練習」や「問題文」を日本語も含めてゆっくりと「音読練習」すること。

(2)「音読」していてもよく読めない・意味のわからない「ことば」つまり「英単語」や「語句」つまり「英熟語」があったら、「英和辞典」を用いて調べること。

(3)「構文」や「文法事項」があったら、「英語の参考書」を用いて調べること。

(4)調べて「理解」できたら、「予習ノート」に記録し、「音読練習」や「書き取り練習」を繰り返してその場でしっかりと身につけること。

(5)「問題」や「パターン練習」を口頭でやってみるのは、その後です。問題文を読み、答え

がスラスラ出るようになったら、「予習ノート」に「問題文」と「答えの文」を書いておくこと。

(6) 答えがわからない問題には、カラーで「よくわからないマーク」をつけて授業に臨むこと。

(7) 「次のうちから正しいものを選びない」という形で出題される選択問題の場合には、問題文の肢にいくつかの「単語」や「語句」、文章がありますが、それらについてもよく読めないときは辞書で発音記号を調べ、また、意味を調べた上でノートに「記録」。その後、しっかりと「音読練習」と「書き取り練習」をしましょう。

Q：ずい分徹底的にやるのですね。

A：(1)はい、その通りです。

(2) このようにして、一通りの予習が終了したら、予習を終えたその日の授業範囲について「音読練習」を何回かしましょうね。

(3) 学校の教科書には CD(MD)などがありますので、それを活用して「音読練習」をする。教科書の全文がスラスラとよく読めるようにしてから、学校に出掛けて授業に臨む。これが英語の予習です。

(4) ノートは、学校の教科書 1 ページにつき 4 ページ使うとよいでしょう。

1 ページ目(見開き左側ページ)は、英単語とその意味。

2 ページ目(見開き右側ページ)は、教科書の英文とその日本語訳(1 行 ~ 2 行おきに書いておくと、授業中にメモができます)。

3 ページ目(見開き左側ページ)には、「問題練習」や「パターン練習」の予習をしたもの(このページも 1 行 ~ 2 行おきに書いておくと、授業中にメモができます)。

4 ページ目(見開き右側ページ)の上の方には予習をした「文法事項」を、下の方には「授業内容」を板書事項といっしょにメモするとよいでしょう。

(5) わかりましたか。

Q：授業中はどうすればよいのですか。

A：一心不乱いつしんぷらんに先生のお話お話をに耳を傾ける。一語一句聞き漏らさない。先生がお話になったことはすべてその場で「理解」し、すべて覚えてしまうくらいの意気込みで授業に臨んで下さいね。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1) 日本の景気も世界の景気もここまで悪化すると、我々にできることは英語を勉強して、国際的に活躍する以外にありません。

(2) 学校での英語の勉強は、すべて世の中に出て役に立ちます。

(3) 受験勉強で英語を勉強して何の役に立つのかと疑問をもつ人がいますが、英文法を身につけるといことは、誰にでもわかる正しい英語でコミュニケーションができることを意味します。

(4) 英文法通りの英語は、きれいな英語、ていねいな英語を意味します。単語だけ並べても尊敬は得られませんが、英文法を用いたきれいで正しい英語を用いる人は、たとえたどたどしくても立派な人として尊敬されます。

(5) きれいな筆記体で英語が書ける人も、知性の高い人との評価の対象となります。自分の名前だけでも、これ以上ない美しさで書けるまで筆記体を練習して下さいね。

(6) 今日、ここまでで 400 字詰め原稿用紙で 14 枚になってしまいました。長い長い私の文章をここまでよくお読み頂き、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

以上